

釧路ベイロータリークラブ会報

会長方針

「ロータリーを語り合しましょう、そして積極的に参画しましょう」

2025-2026年度 第21回(通算第1274回)

プログラム『パストガバナーロータリーを語る②』

■日時:令和8年1月20日(火)18時30分～ ■例会場:アクア・ボールくしろ

【会長】森 圭一郎 【副会長】貝嶋 政治 【幹事】平野 知子

■ 点 鐘 森 圭一郎会長

■ ロータリーソング『それこそロータリー』

■ 唱和『四つのテスト』



ソングリーダー
貝嶋 政治君

■ 会長挨拶



森 圭一郎会長
皆さんこんばんは。ま
ずご報告として1月15
日(木)に釧路北ロータ
ーアクトクラブの新年
例会に参加、そして1月
18日(日)には RLI パ
ート2が開催、こちらは

受講生28名とファシリテータ12名の合計40名で開催されましたことをご報告いたします。先週は職業奉仕月間例会でした。RLI方式を用いてそれぞれ皆さんから職業奉仕

をお話いただきましたが、車座になって皆さんの職業から職業奉仕を学んでいただくことが出来ましたことに感謝を申し上げます。ロータリーの活動の中で自らの職業についてお話しされる機会は中々ありませんので、今回は大変良い機会であったと感じております。さて本日の例会はパストガバナー大いに語る②です。本来は葎本パストガバナー担当でしたが所要のため欠席とのことで、前回に引き続き漆崎パストガバナーにお願いをしております。ガバナーの職務はガバナー年度だけではなく、当該年度の3年前からガバナーノミネーデジグネートとして活動が始まり、ガバナーノミネー、ガバナーエレクト、ガバナーとなります。ガバナーが終了してからもパストガバナーとして RI、地区の要職でご活躍されております。今年度漆崎パストガバナーは米山記念奨学会理事として、葎本パストガバナーは米山記念奨学会広報委員としてそれぞれご活躍され、2500地区内でも多くの要職につかれておりますので、詳しくは活動計画書の2500地区組織図をご参照

ください。本日の例会はパストガバナー担当です。改めまして漆崎パストガバナーに宜しくお願い申し上げます。本年度第21回例会の会長挨拶とさせていただきます。本日は一日どうぞ宜しくお願いします、ありがとうございました。

■ 幹事報告



平野 知子幹事
皆さま、こんばんは。

本日の幹事報告は3点です。

①すでに2月の例会案内が届いているかと思いますが、2/17のゲスト卓話例会は4/14の卓話例会と入れ替えになっております。

②ロータリー文庫より文庫通信のご案内が届いております。

③先日の理事役員会の議事録をボックスに入れましたのでご確認をお願いいたします。幹事報告は以上です。

■ 各種記念日の紹介(親睦活動委員会)



【入会記念日】

小平優之君、千葉潔君
平成 28 年1月26日
(10年目)

【誕生祝】

該当者はありませんでした。

【結婚祝】

該当者はありませんでした。

・本日のニコニコ献金

【漆崎 PG よろしく申し上げます】伊藤広樹君、横山豊君、森圭一郎君、鈴木敏夫君、後藤義信君、平野知子君、大越拓也君、貝嶋政治君、植原元晴

☆本日のニコニコ献金

¥20000

☆累計

¥593138

皆さん、ありがとうございました

・本日のプログラム

『パストガバナーロータリーを語る②』

担当 漆崎パストガバナー



皆様こんにちは。

まず、パストガバナーの卓話の時間を作っていただき、ありがとうございます。

今回は 葭本正美パストガバナーの予定でし

たが、所用のため私が代理をいたします。

今年度の森会長方針として「ロータリーを語り合い、積極的に参画しましょう。」と言われました。次年度 30周年のためにも 具体的方針として、一番目に たくさんの仲間を増やし、退会防止に努めましょう とあります。2月3日の例会には、会員の皆様が1人づつ友人、知人に声掛けをして、例会に出席しましょう。ポーリングや親睦会を通して、バイククラブの仲間を知っていただき、ロータリーを少しでも知っていただき、粘り強く入会を勧めましょう。千葉会員増強委員長の企画と意気込みにみんなで強力に後押ししましょう。私も今、複数の友人知人に声掛けをしています。

私は今年度、地区の仕事で 三つの委員会(諮問、ガバナー指名、ラーニングの各委員会)に所属すると共に、地区代表として 米山記念奨学会の理事をおうせつかっています。先月、12月7日には旭川で次年度米山留学生の選考試験に出席し、8名の選考をしました。8月には東京で理事会に出席して様々の議題を討議してきました。そこで今回は 米山記念奨学会事業について 私の

思うところをお話ししたいと思います。

私は 日本のロータリーが誇るべき事業に、ロータリー米山記念奨学事業があると思います。これは「公益財団法人ロータリー米山記念奨学会」と日本のロータリーが協同して行う奨学事業です。今日のお話は 米山奨学事業をわかり易く、しかも 私たちが出来る世界平和への確かな第一歩であることをお話ししたいと思います。

この事業が出来て約 70 年、この着想は日本のロータリーの創始者である故・米山梅吉翁の生前の功績を讃えて、東京ロータリークラブが始めた「米山基金」です。奨学金給付の対象になるのは、訪日した私費外国人留学生に限られています。私達ロータリアンは、彼らが将来有能な人材に育ち、いずれは 日本と母国との平和の架け橋となって、国際親善や、国際平和に貢献してくれる事を期待しています。

具体的には 彼らに、1 年、又は 2 年の間、返還不要の奨学金を支給します。その対象者は年間約 850 人、年間に支給する奨学金の総額は約 15 億円という規模で、民間団体による国際奨学事業では国内最大級です。これまでに この恩恵を受けた留学生は 2 万 2000 人で、その出身国は約130ヶ国に及んでいます。

先日の地区大会で 2500 地区と姉妹提携を結んだモンゴル国のガルバドラフ・ジャンチブさんも米山留学生であり、本国の国会議員でもあり、とても親日の人です。

この事業は 全て日本のロータリアンによって まかなわれているのが特徴です。その為、この事業の維持には年間1人当たり1万6,000 円の寄付が必要です。ロータリークラブには 会員に対してお願いする寄付がい

くつかありますが、米山記念奨学会への寄付は そのうちの大切な一つであります。勿論、税制上の特典も認められています。この事業には 3つの特徴があります。

①日本のロータリークラブは 2,200 ありますが その中の 850 のクラブが割り当てられた留学生の支援を担当します。これを「世話クラブ」と言います。

②世話クラブでは 受け入れた留学生の相談役となる会員を決め、その会員は、1 年又は 2 年間、その役を務めます。このロータリアンを「カウンセラー」と言います

③米山奨学生であった留学生は、大学、大学院を卒業後は「学友会」と言う組織に入り、後輩の支援をします。

「米山」事業は、ロータリーの行う事業の中で最も分かり易く、参画して、その深い素晴らしさを体験する機会だと私は思います。

事業の内容は簡単で (1)私費、(2)外国人、(3)留学生 という基礎資格を前提に、(4)前年度の地区の寄付総額で決まる奨学生数、(5)指定校制度、(6)地区米山委員会による選考(書類と面接)の構成の中から、次年度の奨学生が決まる。その後は 地区内のどこのクラブに「世話クラブ」になってもらうか、その中のどの会員に「カウンセラー」になってもらうかをきめ、クラブ側からの意見も入れてベストマッチングが決定します。そうして、4 月の新学年度から、実際の奨学金給付が開始します。

奨学生たちは、毎月、世話クラブの第一例会に出席し、例会時間中に会員に対し、近況報告をして、その月の奨学金を受け取ります。

ここからが 大切なところです。

この 1 時間でクラブ会員との交流が生まれ、その後 様々なクラブ行事に参加して、母国

と日本との文化や慣習の違いを体験して行く。日本のお父さん、お母さんに相当するカウンセラーとの交流も濃密になり、休日には、カウンセラーの家族と一緒に行楽に出かけたり、食事会に呼ばれ日本の食事を楽しんだり、進学や就職の相談をすればカウンセラーは真摯にそれに応え、クラブのメンバーや地区の米山委員と一緒にそれに対応する。まさに、一人の子供の親代わりのような存在になる。卒業後、彼らは学友会に所属し、相互の連絡を続けながら交流は続きます。これらの事から、親愛を込めてファーストネームで呼んだり「オヤジさん」と呼んだり、奨学生の方も日本が好きになり、日本に就職して結婚して日本に留まる者、帰国して母国で活躍し、その国の中枢人物となって文字通り日本との懸け橋になっていく者、これまで沢山の事例があります。我がクラブでも 伊藤広樹会員がカウンセラーを経験しています。是非とも多くのロータリアンに米山のカウンセラーを経験してもらいたいと思います。そうすれば、きっと 留学生の真面目さに感動して、米山のファンになります。彼らからは、いまの日本の若者からは あまり感じられなくなった ひたむきな生き方、生きる力を感じます。彼らの持つひたむきさは、私達が若い時

に持っていた人生への不安、それに立ち向かう前向きな情熱を思い出させてくれます。彼らを応援してやりたいとだれもが そう思います。私達は ロータリアンから聞かれる事があります。「なぜ、米山の奨学生は、留学生に限るのか?」「なぜ、日本人の学生には、支援しないのか?」「日本と政治的にあまり仲の良くない国の留学生に支援をする事は面白くない。だから、私は米山に寄付をしない。」等々。こう言った疑問も カウンセラーを経験すれば 即座に解消すると思います。こういう名言があります。『寄付は、お金のある人がすることではなくて、心のある人が することなのです。』その心に触れることができるのが ロータリーの組織であり、その中にいる人々が ロータリアンです。つまり、「ロータリーは 人生道場」と言われる面がそこにあると思います。参画すれば その様な体験をいくつも可能にする組織だからです。これからも 忙しい仕事の合間に、また、時を割いてもロータリーを楽しみ、ロータリーの行事に積極的に参加(参画)したいものです。きっと ロータリーの価値が理解でき あなたの人生に輝きを増すことと思います。

釧路ロータークラブ 出席委員会

在籍会員数	20名	賜暇 / 免除	欠席 / メイクアップ	出席率
今週の出席率	10名	0名 / 名	10名 / 名	50.0%
日修正出席率	名	名 / 名	名 / 名	%

会報・雑誌・IT委員長 後藤 義信 : yoshinob510@outlook.com
 副委員長 横山 豊 : yokoyama_jiritsu@email.plala.or.jp
 今回担当○ 委員 植原 元晴 : ueharaoto@jeans.ocn.ne.jp
 委員 大越 拓也 : takuya.76tsru@gmail.com
 委員 美馬 嵩俊 : tm.0919mima@gmail.com

クラブ事務所 釧路市幸町14丁目1-1 ノースコート2階 TEL : (0154) 23-6175 FAX : (0154)23-6213